

阪南市子ども未来プロジェクトに係る地域合同ワークショップ 要旨

1 開催日程

平成29年3月11日（土） 午後2時～ 阪南市防災コミュニティセンター

2 参加者数

44名（ファシリテーターを除く。）

3 地域合同ワークショップの内容

■テーマ：阪南市で「産みたい！」「育てたい！」「暮らし続けたい！」

①保護者が求めている具体的な子育て機能（サービス）は？

（例：学び機能、相談機能、託児機能、情報発信機能、交流機能、遊び機能など）

②その機能は、誰が（行政等に求めること、地域でできること、家庭でできること）担うのか？

■ワークショップでの主な意見

学び機能

- （行政）・ボランティアを活用した勉強できる場づくりの支援
 - ・絵本や読書による国語力の強化
 - ・どんな絵本でも揃い、人を呼び込める絵本センター
- （地域）・シニア世代が集まり、知恵の伝承や学習支援を行うことができる場づくり
 - ・住民センターなど身近な施設を活用した絵本と触れ合える場づくり
- （家庭）・困っている人を助ける姿勢を子どもに見せる。
 - ・絵本の読み聞かせを通して、自尊心を育む。

相談機能

- （行政）・妊娠期から悩みを聞いてもらえるよう専門家につなげてもらえる場づくり
- （地域）・公民館などを活用した子育てサロン

託児機能

- （行政）・早朝保育、延長保育、病児保育の実施
- （地域）・地域の人が見守り、子どもが安全に過ごせる居場所づくり

情報発信機能

- （行政）・行政と地域で活動している団体や市民が相互につながり、情報共有できるような仕組みづくり（LINE やアプリの活用）
- （地域）・ミニコミ誌の発行
- （家庭）・おせっかいなおじさん、おばさんになる。

交流機能

- （行政）・GPS を活用した登下校時の見守りサービスの実施
- （地域）・スクールサポーターなど子どもを地域で見守る活動の強化
 - ・見守り時の地域の方からの「一言プレゼント（声掛け）」

- ・空き家や小学校跡地を活用した交流
- ・支援が必要な子ども達やその親との交流により地域で理解を深める。
- ・孫世代が先生となり、おじいちゃんおばあちゃんに教えるパソコン、スマホ教室
- ・既存の団体（自治会、老人クラブ、青年団など）との交流を図る。

（家庭）・家庭内で挨拶をしっかりとる習慣をつけさせ、地域とかかわれるようにする。

遊び機能

（行政）・小学校跡地のグラウンド開放

（地域）・身近な公園の修繕・手入れや芝生化、自然を観察できる場づくり

その他

- ・幼保施設建替えの方向性を早く出してもらいたい。

4 子ども・子育て会議学識委員コメント

・ワークショップでたくさんアイデアが出たが、一番根っこにあるのは、「どんな子ども達を育てたいのか」「子ども達にどんな力をつけさせたいのか」ということである。

・乳幼児期に育てる力として、「非認知能力」「自尊心」「共生」がキーワードになってくる。

・「非認知能力」は「わかる」「できる」といった能力の基になる能力で、将来的な認知能力の高まりにつながってくる。遊びを通して、粘り強く、友達と仲良く物事に取り組んでいくということが大切である。

・日本の子どもは「自尊心」が低いと言われているが、自分って「イケてるやん」「素敵やん」という感覚、周りの人から「素敵よね」と言われる環境によって自尊心が育まれる。

・「共生」は、違いのある人たちと一緒に生きて行く力で、いろんな人と過ごしていく中で大事になってくる。支援が必要な子といっしょに育つということは大きな意義があり、「共生の社会」の担い手になっていく。

・子どもと向き合うことが困難な家庭もある中で、地域で何ができるのか、どういった行政の支援が必要なのかということを踏まえながら、みんなで子どもを育てていくという発想が重要である。

・子どもの居場所をつくることによって、自分が育った地域を好きになり、阪南市に戻ってくるサイクルにもつながる。

・行政の後押しも必要だが、行政がやりすぎてしまうと管理的になってしまう。ゆるやかさを求めて行政は支援に努め、みんなで支えていくという空気感や雰囲気を作っていくことが必要である。

・幼稚園、保育所、認定こども園は、保育機能に違いはあるが、求められている教育機能に差はない。幼児期の教育で何が大事なことなのか、行政も意識しながら発信していく必要がある。

・地域が抱えている教育・保育課題を踏まえた上で、どういった支援が必要か制度設計していくことが必要となってくる。

阪南市子ども未来プロジェクトに係るワークショップ参加者数【実績】

	東鳥取地域	下荘地域	西鳥取地域	尾崎地域	合同WS	
日 時	2月12日 (日)	2月18日 (土)	2月25日 (土)	2月26日 (日)	3月11日 (土)	計
	14:00～	14:00～	9:30～	14:00～	14:00～	
場 所	東鳥取公民館	下荘小学校 体育館	西鳥取公民館	防災コミュニティセンター (まもる館)	防災コミュニティセンター (まもる館)	
ワークショップ参加者	23	29	24	12	44	132
公募市民	9	10	10	0	24	53
幼稚園保護者	5	6	5	2	5	23
保育所保護者	2	4	0	4	3	13
子育て総合支援センター 利用者	0	5	2	0	3	10
各種団体	5	3	6	4	7	25
主任児童委員	1	1	1	1	3	7
自治会連合会	1	0	2	0	1	4
校区福祉委員	1	1	1	1	1	5
社会福祉協議会	2	1	1	2	1	7
NPO団体	0	0	1	0	1	2
庁内公募職員 【延べ】	2	1	1	2	2	8
ファシリテーター（PT） 【延べ】	9	9	9	8	12	47
合計	32	38	33	20	56	179

地域合同ワークショップ とりまとめ

班	行政等に求めること	地域でできること	家庭でできること	
A	機能	<p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターなど地域で頑張っている人の活動をつなげる場や共有できる仕組みづくり ・市と地域で活動している団体や市民が相互につながり、情報共有できるようなアプリの整備、活用(その他) ・コミュニティバスの増便 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民センターなど身近な施設を活用して、絵本に触れ合える場をつくる。 (交流) ・地域で子どもに積極的にかかわり、自分が地域で大切にされている実感を持たせる。 ・親が時間がなくかかわりが難しいときも、地域のおじいちゃんおばあちゃんが声掛けすることで子ども元気になれる。 ・スクールサポーターなど子どもを地域で見守る活動 ・地域の人が見守り、子どもが安全に過ごせる居場所づくり(預かり保育、学童保育などに預ける必要がなる。地域と親の関係が深まり、より地域に愛着がわく。) ・空き家の活用(和歌山大学の下宿場として学生を呼び込み、地域の子どもの勉強を教える学生ボランティアとして活躍してもらう。) ・おせち料理など、料理の伝承を通じた多世代交流(その他) ・旧家電量販店の1階スペースを利用した朝市の開催(地域活性化、収益の地代への充当) 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝る前の読み聞かせの時間を大事にする。 ・ゲームやスマホから離れる時間をつくり、家族での会話や親子のふれあいの時間を増やす。 ・絵本の読み聞かせを通して、子どもの自尊心を育む。 ・子育てに地域とのかかわりが大切なことを親が学ぶ。
	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ・朝市の開催(地域活性化、収益の地代への充当) ■その他施設 ・住民センター・・・絵本に触れ合える場 ・市民病院・・・病後児保育 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールの活用は水野メソッドにもすでに入っているようである。ラインスタンプを付けるとダウンロード数が増えるかもしれない。 ・ミニコミは、情報の発信をどう工夫していくかが大きいと思う。 ・バスアクセスなど利便性をどうサポートしていくかがポイントとなる。 ・異世代交流は、どこかが軸となってじわっとひろがっていく。じわっと広がる仕掛けを行政としてどう作っていくか、サポートしていくかが重要となる。 		
B	機能	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で勉強できるスペース ・博物館など文化施設の整備 ・子どもが本や絵本に触れ合える場所づくり ・幼稚園と小学校の連携 ・母親も子どもも学べる機会(阪南市の職業・命の授業) (相談) ・妊娠期から悩みを聞いてもらえるように専門家につなげてもらえる場 (情報発信) ・親子のイベントなど継続的に参加できるような情報発信の工夫や充実 (遊び) ・追いかけなくても安全に遊ばせることができる公園 ・子育てカフェやポーネルドのような場所(その他) ・通級学級を各小学校で実施 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学時に勉強や宿題をサポートする場づくり ・絵本や読書による国語力の強化(相談) ・公民館を活用して子育てサロンを作る。(交流) ・様々な子どもが触れ合う機会を増やすことで心が育つ ・同世代・異世代のお母さんの交流ができる場 ・幼稚園や保育所の具体的な情報を交換できる場 ・井戸端会議ができる場所づくり ・学童に行かなくても安心して過ごせる場所づくり ・親同士が知り合える場所づくり ・高齢者と子どもたちが一緒に交流できる場 ・家庭で食べられないようなものを食べることができる子ども食堂 ・地域と気軽に触れ合える駄菓子屋のような場 ・小学校跡地を活用した交流できるスペース(情報発信) ・おせっかいおばさんによる情報発信(遊び) ・自然遊びやセルフビルドできる場所 ・季節の行事の開催(その他) ※箱の浦では地域と高齢者がサロンを通じてつながっている。4月からは新たに子育て世代ともつながる取組みが始まる。 ※妊娠期から切れ目のない支援をどうつなげていくか工夫が必要 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学時の勉強のフォロー ・家庭における食育(交流) ・おせっかいおばさんになる。
	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ■その他施設 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンなどの場づくりは、行政と地域がどう連携していくかがポイント。また、そういった場に来にくい人をどうするのかという課題がある。 ・国語力は学力のベースになる。コミュニケーションのための言葉を豊かにしていくことは大事。たくさんの言葉を持っていれば相手にもっと伝えることができる。阪南市の教育を国語力を大事にしていくというのも一つのアイデアかもしれない。 		

班	行政等に求めること	地域でできること	家庭でできること	
C	機能	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本を深く勉強し、素晴らしさを理解するため、大人向けの絵本の朗読講座を開催する。 ・ボランティアを活用して、絵本カフェ、読み聞かせの会を開催する。 ・子どもたちが絵本を作るサークル活動を行い、子どもの発想力を伸ばす。 ・絵本作家によるトークライブを行う。 <p>(交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親とその上の世代と触れ合うための交流（自治会など） ・支援が必要な子ども達とその親との交流を行い、地域で理解を深める。 ・お母さんなど親世代が参加できるサークル活動の活発化 ・行政や政治について勉強できる場 ・田畑作業の手伝いを通じた孫世代との交流 ・孫世代が先生となり、おじいちゃんおばあちゃんに教えるパソコン、スマホ教室 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で読み聞かせをする。 ・絵本に載っている料理を親子でつくる。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奉仕することが楽しいことを学ぶ。 	
	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ■その他施設 ・小学校跡地・・・絵本センター 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<p>・「絵本のまち はんなん」という構想はおもしろい。教育にもつながり、地域の拠点にもつながり、人がつながるツールにもなる。</p> <p>・育児休暇を取りやすい環境をつくるためには、行政の支援や仕組みづくりとともに、取得しやすい雰囲気を作ることに繋がっていくことが大切である。</p>		
D	機能	<p>(相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員などの人材活用 <p>(託児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが病気のときの病児保育に加えて、親の体調が悪いときに子どもを預かってもらえる場 ・既存の幼稚園や保育所での預かり保育 <p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求めている情報にすぐに辿り着けるホームページの整備、わかりやすい情報提供 <p>(遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校跡地のグラウンドを活用したボール遊び場（ケガした際は自己責任であることを同意） <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震しながら建替えるのかなど、幼保施設建替えの方向性を早く出してもらいたい。WSなど悠長なことをしている場合ではない。 	<p>(学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地の文庫の活用（お金足りない、認知度が低いといった課題を解決し、人が交流できるツールへ） ・シニア世代など多世代が集まり、知恵の伝承、学習支援を行うことができる場をつくる。 ・使っていない絵本を持ち寄る場や仕組み <p>(相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞地区で行っている「すくすくクラブ」を毎日開催し、いつでも気軽に利用できるようにする。 <p>(交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見守り隊の強化 <p>※共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代や地域の人材を育成し、学び、教育、スポーツ、遊び、相談、行事などを実施 	
	拠点	<p>・拠点となる場所がない。駐車場がある場所を行政で確保してもらったら、既存の活動が広がっていくと考えている。</p> <p>・既存施設の活用（公民館、廃校施設、屋内遊び場、グラウンド、公園など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ■その他施設 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<p>・情報発信の仕方など、すでにあるものを活かしていくような仕組みをつくるのが大事</p> <p>・遊び場、学び場の支援をどうしていくか大きな話であると感じる。</p>		

班	行政等に求めること	地域でできること	家庭でできること	
E	機能	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターでの講座や保健センターで行っている支援の充実と連携を図る。 (情報発信) ・LINEを活用した子育て情報の発信 (遊び) ・既存施設の活用(わんぱく王国、里海公園、箱作公園、体育館、プール、学校跡地の校庭や体育館の活用など) ・利用しやすいトイレの整備 ・屋内ジャングルジムの設置 (その他) ・仕掛けをつくる人の公募 	<ul style="list-style-type: none"> (交流) ・既存の団体(自治会、老人クラブ、青年団など)との交流を図る。 ・おせっかいなおじさんやおばさんになる。 ・空き家を活用した子どもの居場所づくり ・災害時のネットワークづくり ・地域の駄菓子屋さんでの交流 ・季節の行事ごとの伝承 (遊び) ・昔遊びの講習会 (その他) ・マタニティ期交流会(お母さん同士で悩み相談) 	<ul style="list-style-type: none"> (学び) ・毎日1冊絵本の読み聞かせをする。 (交流) ・親子の絆を深めるため、ごはんをいっしょに食べる時間を作ったり、テレビやスマホを使わない日を作る。 ・家庭内で挨拶をしっかりとる習慣をつけ、地域の人に挨拶できるようにする。
	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ・パパママ教室、昔遊びの講習会など多様な勉強ができる場やイベント開催に活用 ・屋内ジャングルジムの設置 ・小児夜間救急の対応 ■その他施設 ・小学校跡地・・・校庭や体育館の開放 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でできることをどう地域が支えるかが重要 ・自治会がどう機能していくか、 ・おせっかいなおじさん、おばさんが増えたら、子どもをかまってくれる人が増え、話してくれる人、聞いてくれる人、怒ってくれる人が増える。 ・行政の発信したり、仕掛けをつくるという役割は扇の要となるので、役割は大きい。 		
F	機能	<ul style="list-style-type: none"> (学び) ・家に眠っている絵本を回収して再活用するため、地域に巡回車を走らせる。 (相談) ・保育所内で相談できる場を作る。 (託児) ・早朝保育、延長保育、病児保育の実施 (情報発信) ・市ホームページの充実 ・登録者へのお知らせメール機能 ・市をもっとアピールするための発信の工夫 (交流) ・GPSを活用した登下校時見守りサービスの実施 (遊び) ・既存施設の修繕 ・サイクリングコースやクロスカントリーの整備 ・子どもが騒いでも大丈夫な屋内施設の整備 (その他) ・Uターン事業(出産助成など) 	<ul style="list-style-type: none"> (学び) ・トラブルがあったときでも、地域で子どもを育てるという姿勢で優しい目で見守る。 (相談) ・地域の一般の人やボランティアの人に相談できる場を作る。 (託児) ・ファミサポとは違う、ちょこっと託児所を作る。 (情報発信) ・ミニコミ誌の作成 (交流) ・見守り時の地域の方からの「一言プレゼント(声掛け)」により少しずつ交流が生まれる。 (遊び) ・身近な公園の修繕や芝生化 ・行きたくなる公園になるよう花壇の手入れ ・飯の峯川の遊び場づくり、生物や植物を観察する場づくり (その他) ・地元の歴史や食文化の学びの会 ・地域のことを知ることで地域を好きになる取組み <p>※地域のつながりを強くする活動を活発化させて、子ども達を見守っていくことが大切であるという意見が多く、田舎である阪南市にマッチしている考え方だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (学び) ・マナーやしつけ、生活習慣を身に付けさせる。 ・困っている人を助ける姿勢を子どもに見せる。
	拠点	<ul style="list-style-type: none"> ■旧家電量販店 ・児童館 ■その他施設 ・小学校跡地・・・子どもが騒げる図書館、地域で交流できる文化施設 		
	子ども・子育て会議学識委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・阪南市の地域を活かした意見がたくさん出ていた。 ・地域を好きになるというためには、人とのつながり、楽しかった経験やいい記憶、大事にされた記憶が大切で、自分の居場所だと感じる事が重要となる。 子どもが居場所を感じていないという子は、その親も居場所がないことが多く、しんどい状況になっている。 ・保護者を含めて地域で居場所をどう作っていくかが大切である。 		